

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520654

研究課題名(和文) 弥生時代集落の広さと居住人口復元に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research for the reconstruction of the area and residence population in settlements at Yayoi Period

研究代表者

伊藤淳史(ITO ATSUSHI)

京都大学・文化財総合研究センター・助教

研究者番号：70252400

研究代表者の専門分野：考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学・弥生時代、集落

1. 研究計画の概要

本研究は、弥生時代社会の発展度を、集落の様相から明らかにすることを目的とする。そのために、集落の規模と居住人口という、もっとも基本となる要素を確実に復元することを具体的内容として設定し、それに必要な遺跡情報の収集検討をおこなう。従来は、一部の目立つ事例からの解釈が普遍化されて社会像と理解されがちであったが、悉皆的な情報収集により、資料の総体をあつかう客観的検証を基盤に据えたいと考える。

2. 研究の進捗状況

(1)研究代表者が活動のフィールドとする京都府南部地域については、遺跡位置や立地などの基本情報のほか、過去の発掘調査履歴、出土遺物内容などの情報収集もほぼ終わることができ、遺跡内の構造を実証的に復元する条件を整えることができた。

(2)上記以外の、京都府北部地域、兵庫県北部地域、福井県若狭湾岸域については、遺跡位置情報のリスト化は終了しているが、過去の発掘調査成果履歴については、縄文時代晩期～弥生時代前期にかかわるものにとどまっている。ただしその過程で、日本海岸域の当該時期の遺跡が、近畿内陸部の状況とは様相を違えて、縄文晩期と弥生前期段階で立地を大きく違えて生活圏を異にする傾向が強いことを具体的に明らかにできた。

(3)日本海側の弥生時代前期にかかわる遺跡としてきわめて重要な位置を占めている、遠賀川式土器のまとまった出土の東端遺跡となっている小浜市丸山河床遺跡について、出土資料の検討をおこない、未報告である土器・木器類の資料報告準備をほぼ終わること

ができた。

(4)居住人口復元の先行研究について、本研究にとって有益と思われるものは国内・国外と時代を問わず収集と理解に努め、歴史人口学関連の基礎知識と手法について把握することができた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

理由：想定以上に毎年新規に公表される発掘調査情報が多く、それらの追加と修正に時間が必要となっているため、本来意図していた近畿地方～西日本全域レベルでの悉皆的な情報収集とはなっていない。また、情報の精粗もあるためシミュレーションを実施するための条件設定が困難であり、現段階では実施できていない。

4. 今後の研究の推進方策

(1)広域での悉皆的な情報収集は、近畿地方レベルまでの範囲にとどめ、状況に応じて、なかでも研究代表者のフィールドとする京都府近郊域を重点的におこなうように配慮したい。それにより、人口想定シミュレーションが実施可能な条件の整った空間を確保したい。

(2)収集した遺跡情報や検討結果は、そのみでも今後の弥生時代研究に大いに資するものと考えるので、利用・活用しやすい形での公表をおこないたい。

(3)あわせて、上記活動の過程で検討した資料で未公表であったものについても、この機会に報告に盛り込むことを考えたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①伊藤淳史「鴨東の古代－古墳～奈良時代の遺跡調査成果からみた集団動態－」『京都大学構内遺跡調査研究年報 2007 年度』、95-127 頁、2010 年、査読無し

〔学会発表〕（計 2 件）

①伊藤淳史「山城地域の弥生前期」、近畿弥生の会設立 10 周年記念大会、2007 年 7 月 1 日、天理大学ふるさと会館

②伊藤淳史「若狭における弥生時代のはじまり」、平成 21 年度若狭歴史民俗資料館郷土史講座、2009 年 5 月 17 日、福井県立若狭歴史民俗資料館

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕 特になし